

『正法眼蔵』研究メモ(一)

角 田 泰 隆

『正法眼蔵』を読むとき、経論や語録からの引用文の多さに驚かざるをえない。出典のほぼ確定できる、まとまった形での引用文だけでも数百を数える。いわんや、わずかな文節の中に、縦横無尽に用いられている經典の一言や祖師の半句まで含めれば、数千はあるだろう。

いったい前者にどのようなコメントが付けられ、後者をどのような意味で用いているのか、これを探ることは道元禅師の思想を理解するうえで有意義なことである。もちろん、その一つ一つについて詳細に論じてゆくことが何よりなのであるが、それは容易でない。そこで、その大概を簡略に視覚的に見ることができれば……、という思惑のもとに成ったのがこの『正法眼蔵』研究メモである。

鏡島元隆著『道元禅師と引用經典・語録の研究』（昭和四〇年、木耳社刊）の引用出典一覧表は、道元禅師が引用されている經典・語録等の出典を表示したものであり、祖師ある

いは経論別にまとめられ、それが道元禅師の著述のどこに引用されているか示し、その出典を第一資料・第二資料（参考資料）という形で示している。

筆者の研究作業は、この鏡島氏の成果を参考にし、『正法眼蔵』の研究の立場から、七十五巻本・十二巻本・その他という組み合わせで、その列次に従って各巻に現われた引用経論・語録を説示順に並べたものである。あくまでもその目的を思想的研究に置いたため、出典は省き、若干の事項（引用経論・語録・祖師の行実等）を付け加え、その事項に対する道元禅師のコメントの内容分類をし、その内容分類にあたってのキーセンテンスを付した。今回、その一部を掲載することにしたが、まだまだ不完全であり、今後、充実を期したいと思っている。

〔例言〕

一、この表の作製にあたっては、大久保道舟編『道元禅師全

集』上巻を用いた。よって「巻目」は七十五巻本の配列に従った。

二、「事項」は、鏡島元隆著『道元禅師と引用経典・語録の研究』の「引用出典一覧表」の「事項」を参考にし、一部変更、付加した。〈嗣承〉は仏法の伝承に関する記述がある場合に用い、〈(祖師名)〉はその祖師について言及している場合に用いた。〈自叙〉は道元禅師自身の自叙のある箇所に用いた。但し、如浄禅師からの聞き書きの場合については用いなかった。また、コメントが付されている主な語句等について()に入れて示した。

三、「祖師名(経論名)」は、原則として、引用文が語録等の場合は祖師名を(問答の場合は両者の名を)、経論等の場合は経論名を示した。

四、「内容分類」ではその事項に関するコメントの内容分類を試み、「解説」「引証」「称賛」「批判」「破邪」「参究」「説示」「提起」「補足」に分類した。但し、例外として、コメントではないが、祖師の行実についての記述がある場合には〈行実〉を用いた。また、これらの分類項目に①②③等の番号を付し、その内容分類に関するキーセンテンスを示した。分類項目の内容は次のとおりである。

「解説」…祖師の語(経論)を解説している。「…とは」「いはゆる…は」「いまの…は」等のかたちで示

しているもの。

「引証」…祖師の語(経論)を引いて証としている。祖師の語(経論)を引いて肯っている。「しるべし…」「しかあればすなわち…」等のかたちで示しているもの。

「称賛」…祖師あるいは祖師(経論)の語を称えている。

「批判」…引用文あるいは祖師に対する批判をしている。

「破邪」…引用文に対する批判ではなく、その解釈における邪見を挙げて、それを破している。

「参究」…その祖師に対して問いかけている。学人の参究を促している。また、「…か、…か」という問いかけのかたちで示しているもの。

「説示」…「事項」に関して説示している。

「提起」…祖師の語(経論)を提起している。以下の説示の導入にしている。

「補足」…祖師の語(経論)を補足している。

五、「引用文長」は、参考までに引用文の長さを数字で示したもので、引用文の文字数について、10文字を1(小数点以下は四捨五入)として計算して数字で表した。但し、句読点等は文字数から除いた。

六、「備考」では、「事項」に取り上げた引用文以外の主な祖師語、故事等を「」中に示した。また、「事項」に挙げ

た引用文が他の『正法眼蔵』の巻にも引用されている場合は↓で示した。また、必要に応じて筆者のコメントを*で示した。

巻目	事項	祖師名 (經論名)	内容分類	引用 文長	内容分類に関するキーセンテンス	備考
現成公案	風性常住	麻谷宝徹	①引証②破邪	14	① 仏法の証驗、正法の活路、それかくのごとし。 ② 常住なればあふぎをつかふべからず、つかはぬをりもかぜをきくべきといふは、常住をもしらず、風性をもしらぬなり。	
摩訶般若	竊作是念	大般若經	①解説	14	① 而今の一苾芻の竊作念は、諸法を敬礼するところに、雖無生滅の般若、これ敬礼なり。…	
	帝釈問善現	大般若經	①引証	6	① しかあれば、学般若これ虚空なり、…	
	帝釈白仏言	大般若經	①引証	20	① するべし、受持読誦、如理思惟、すなはち守護般若なり。	
	風鈴頌	天童如淨	①引証	3	① これ仏祖嫡嫡の談般若なり。	○先師古仏云、… ↓虚空
	仏言舍利子	大般若經	①引証②解説	19	① しかあればすなはち仏薄伽梵は般若波羅蜜多なり、… ② この般若波羅蜜多の現成せるは、仏薄伽梵の現成せるなり。…	
仏性	悉有仏性	北本涅槃經	①提起	2	① これわれらが大師釈尊の獅子吼の轉法輪なり…	○釈迦牟尼仏言、…

〈嗣承〉

欲知仏性義

仏性海

百丈懷海

馬鳴

①解説②破邪

①解説②破邪

①引証②解説

2

4

○参学しきたること、すでに二千一百九十年、
：正嫡わづかに五十代、(至先師天童淨和尚)
西天二十八代、代代住持しきたり、東地二十
三世、世世住持しきたる。

①世尊道の一切衆生悉有仏性は、その宗旨いか
む。：

②仏性の言をききて、学者おほく先尼外道の我
のごとく邪計せり。

②ある一類おほく、仏性は草木の種子のごと
し、法雨のうるひしきりにうるほすとき、芽
茎生長し、枝葉花菓もすことあり、：。かく
のごとく見解する、凡夫の情量なり。

①いま仏性義をしらんとおもはばといふは、：
②時節若至の道を、古今のやから往々におもは
く、仏性の現前する時節の向後にあらんずる
をまつなりとおもへり。かくのごとくのたぐ
ひ、おそらくは天然外道の流類なり。

①第十二祖馬鳴尊者、十三祖のために仏性海を
とくにいはく、しかあればこの山河大地、み
な仏性海なり。

②皆依建立といふは、建立せる正当恁歴時、こ
れ山河大地なり：

*悉有の解釈において、道
元禪師独自の解釈が見ら
れる。

○仏言、：
*若至の解釈において、道
元禪師独自の解釈が見ら
れる。

〈弘忍〉	仏性問答	道信・弘忍	①解説	19	<p>○五祖大満禪師は、蕪州黄梅人也。無父而生。 …… ①四祖いはく汝何姓は、…なんぢは何姓と為説するなり。 ①四祖いはく是何姓は、…何は是なり、是は何しきたれり、… ○震旦第六祖曹谿山大鑿禪師、そのかみ黄梅山に参ぜしはじめ… ①この嶺南人無仏性といふ、… ①六祖道得の句に宗旨あり。いはゆる、… ②六祖その人ならば、この無仏性の語を功夫すべきなり。有無の無はしばらくおく、いかならんかこれ仏性と問取すべし、なにもものかこれ仏性とたづぬべし。 ③おろかなるやからおもはくは、人間には質礙すれば南北あれども、仏性は虚融にして南北の論におよばずと六祖は道取せりけるかと推度するは、無分の愚蒙なるべし。… ①六祖示門人行昌云、…いはゆる六祖道の無常は、…しかあれば、草木叢林の無常なる、すなはち仏性なり。 ○第十四祖龍樹尊者、梵云那伽闍刺樹那、…西天竺三国人也。…</p>
〈慧能〉	嶺南人無仏性	弘忍・慧能	①解説	11	
	仏性無南北	慧能	①解説②参究 ③破邪	2	
無常仏性		慧能・行昌	①解説	3	
〈龍樹〉					

*何の解釈において道元禪師独自の解釈が見られる。

円月相	龍樹	①引証②破邪	27	①しるべし、真箇の用辯は声色の即現にあら ず、真箇の説法は無其形なり。… ②よのつねの凡夫二乗に例諸することなかれ。 偏枯に仏性は広大ならんとのみおもへる、邪 念をたくわゑきたるなり。… ②愚者おもはく、尊者かりに化身を現ぜるを円 月相といふとおもふは、仏道を相承せざる儻 類の邪念なり。… ○予、雲遊のそのかみ、大宋国にいたる。… ○杭州鹽官齊安国師は馬祖下の尊宿なり。… ①いま仏道にいふ一切衆生は、有心者みな衆生 なり、… ②しばらく国師にとふべし、一切諸仏有仏性也 無。… ①大滄山大円禅師、あるとき衆にしめしていは く、…大滄の説道は、…しかあれども、一切 衆生無仏性のみ仏道に長なり。 ②また滄山にむかひていふべし、一切衆生無仏 性はたとひ道得すといふとも、一切衆生無衆 生といはず、一切仏性無仏性といはず、…
〈自叙〉 衆生有仏性 〈鹽官齊安〉	道元 塩官齊安	(成桂知客と の問答) ①解説②参究	4	
衆生無仏性	滄山靈祐	①称賛②参究	3	

嘉定十六年癸未秋のころ…
寶慶元年乙酉夏安居…

誘仏法僧	百丈懷海	①引証②参究	2	①このゆへに百丈いはく、…しかあればすなはち、有仏性といひ、無仏性といふ、ともに謗となる。謗となるといふとも、道取せざるべきにはあらず。… ②且問你大滌・百丈、しばらくきくべし。… ①いはゆる五蘊は、いまの不壞身なり。いまの造次は… ①黄檗在南泉茶堂内坐。南泉問黄檗、…いはゆる定慧等学の宗旨は、… ①黄檗いはく、不敢。この言は、… ①この因縁を挙して、滌山、仰山にとふていはく、…大滌の道は、…仰山いはく、… ①趙州真際大師に、ある僧とふ、狗子還有仏性也無。この問の意趣あきらむべし。狗子とはいぬなり。かれに仏性あるべしと問取せず、なかるべしと問取するにあらず。これは鉄漢また学道するかと問取するなり。… ①いはんや欲識庵中不死人… ①いはんや雲居高祖いはく、… ①長沙景岑和尚の会に、竺尚書とふ、…いま尚書いはくの蚯蚓斬為兩断は、…
仏是最上乘	百丈懷海	①解説	13	
定慧等学	南泉・黄檗	①解説	8	
陷虎之機	滌山・仰山	①解説	6	
狗子仏性	趙州從諗	①解説	10	
(欲識庵中)	石頭希遷	①引証	2	
(錯用心)	雲居道膺	①引証	3	
兩断蚯蚓	長沙景岑	①解説②参究③破邪	5	

*趙州の「狗子還有仏性也無」の問は「鉄漢また学道するか」という問である、としている点は興味深い。

身心学道	(修証不無)	南嶽懷讓	①引証	3	②この道得は審細にすべし。…といふか。…といふか。 ③しかあるを、仏性は動不動によりて在不在し、識不識によりて神不神なり、…と邪見せるは外道なり。 ①このゆゑに、前仏後仏かならず仏道を修行するなり。	↓行仏威儀・洗淨・遍参・自証三昧 「荷葉団団…」
(赤心片片)	古仏心	南陽慧忠	①解説 ①引証	5	①赤心片片といふは、… ①しかあればしるべし、古仏心は墻壁瓦礫にあらず、… ①平常心といふは、… ①身学道といふは、…	↓古仏心・発無上心・後心不可得 「千門万戸一時開閉」 「尽十方界真实人体」 「死去來真实人体」
(平常心)	(身学道)	自然外道	①解説 ①引証	3	①後学かならず自然見の外道に同ずることなかれ。…これら閑家の破具にあらず、学道の積功累徳なり。 ①尽十方世界といふは、… ①生死去來真实人体といふは、…	↓「惑現此身得度而為説法…」
(尽十方世界)	(生死去來真实人体)	圓悟克勤	①解説 ②補足	3	①この道著、しづかに功夫点検すべし。圓悟禪師かつて恁麼にいふといへども、なほいまだ生死の全機にあまれることをしらす。	↓全機

即心是仏	(先尼外道)	南陽慧忠	①解説	32	①外道のたぐひとなるといふは、…これすなはち先尼外道が見なり。 ①大證国師は曹谿古仏の上足なり、天上人間の 大善知識なり。 ②国師のしめす宗旨をあきらめて、参学の亀鑑とすべし。	
即心是仏			①称赞②引証			
大地無寸土		長靈守卓	①引証②補足	2	①このゆゑに古人いはく、…しるべし、… ②あるいは心を識得すれば、大地さらにあつさ三寸をます。	
妙淨明心		瀉山靈祐	①引証②補足	2	①あきらかにしりぬ、心とは山河大地なり、日月星辰なり。 ②しかあれども、この道取するところ、すすめば不足あり、しりぞくればあまれり。	「即於法性、起法性見、即是無明」 ↓如来全身
行仏威儀	(仏縛)	法華經	①解説		①仏縛といふは、…	「即於法性、起法性見、即是無明」 ↓如来全身
	我本行菩薩道 (修証不無)		①引証	2	①かるがゆゑに…なり。しるべし、… ①しかあればすなわち、修証は無にあらざ、有にあらざ、…	「万里一條鐵」「百年抛卻任縦横」 ↓身心学道・洗淨・遍参・自証三昧
	祇此不染汚	慧能	①引証	3	①しかあればすなわち、汝亦如是のゆゑに諸仏なり、…まことにわれにあらざ、なんぢにあらざ。	
体取那辺事		宏智正覺	①引証	2	①かるがゆゑに…	○古仏いはく、…

一 顆明珠	世尊往兜率天 此輩罪根深重 大聖生死	法華經	①引証 ①解説	3 2	①まことにしるべし、人間の釈迦は、 ①深重の罪根たとひ無端なりとも、此輩の深重 擔なり。 ①了生達死の大道すでに豁達するに、ふるくよ りの道取あり。大聖は生死を心にまかす、 ②そのく功夫は、いかなるかこれ生、いかなる かこれ死、いかなるかこれ…、…なるか、 なるか、…	○祖宗いはく、 ○諸仏いはく、 ○ふるくよりの道取あり、
	轉大法輪	雪峰義存	①解説②参究	2	①いま三世諸仏といふは、一切諸仏なり。 ①しばらく雪峰のいふ三世諸仏、在火焰裏、轉 大法輪といふ、この道理ならふべし。 ②火焰と諸仏と親切なるか、転疏なるか、 か、…か、…か、…	*最初に雪峰・玄沙・圓悟 の三者の話をまとめて引 用している。
	火焰説法 烈焰亘天	玄沙師備 圓悟克勤	①解説 ①解説②称賛	2 5	①玄沙いはく、… ①圓悟いはくの… ②この道は、真箇これ晩進の光明なり。 ①しかあれば、…	○釈迦牟尼仏のいはく、 ↓見仏
	若説此經	法華經	①引証	2	①しるべし、…	○又いはく、… (築著脚指)
	聽受此經 〈玄沙〉	法華經 玄沙師備	①引証 ①〈行実〉	2 55	①娑婆世界大宋国、福州玄沙山院宗一大師、法 諱師備、俗姓は謝なり。…	

一顆明珠	玄沙師備	①解説	12
心不可得	心不可得	①提起	2
〈徳山〉	徳山宣鑑	① 〈行実〉 （売餅婆子） ② 批判（婆子と共に） ③ 参究	59
		<p>① いま道取する尽十方世界、是一顆明珠、はじめて玄沙にあり。その宗旨は、尽十方世界は、広大にあらず、微小にあらず。…</p> <p>① 学人如何会得。この道取は、…</p> <p>① いはゆるの道得を道取するに、玄沙の道は、尽十方世界、是一顆明珠、用会作麼なり。…</p> <p>① 玄沙、來日間其僧、…これは道取す、…</p> <p>① 僧曰、尽十方世界、是一顆明珠、用会作麼いふべし、…</p> <p>① 玄沙曰、知、汝向黒山鬼窟裏作活計。しるべし、…</p> <p>① これ仏祖の参究なり。不可得裏に過去・現在・未来の窟籠を剋來せり。</p>	<p>① いはゆる徳山宣鑑禅師、そのかみ…</p> <p>② 徳山のむかしあきらめざることは、いまきこゆるところなり。龍潭をみしよりのちも、なほ婆子を怕卻しつべし。なほこれ参学の晩進なり、超証の古仏にあらず。</p> <p>③ こころみに徳山にかはりていふべし。</p>
		<p>*最初に公案がまとまって示され、続いて、八分されて各各にコメントが付されている。</p> <p>「逐物為己、逐己為物」 「情生智隔」「大用現前是大軌則」「一尺水一尺波」「今日説不定法」「乳餅七枚、采餅五枚」「湘之南潭之北」 「若六月道正是時、不可道我性熱」 ○釈迦牟尼仏言、… ↓後心不可得 「使得十二時」 「吹滅紙燭をみる」</p>	

古仏心	〈嗣承〉	慧能・青原・南嶽・石頭・馬祖	①引証(解説)	1	○祖宗の嗣法するところ、七仏より曹谿にいたるまで四十祖なり。…青原のとき南嶽あり、南嶽のとき青原あり、乃至石頭のとき江西あり。	○先師いはく、… ↓坐禅箴・仙陀婆 ↓古鏡
宏智古仏	天童如淨	①引証(解説)	1	①はかりしりぬ、天童の屋裏に古仏あり、古仏の屋裏に天童あることを。	○先師いはく、… ↓坐禅箴・仙陀婆 ↓古鏡	
曹谿真古仏	圓悟克勤	①引証(嗣承・解説)	1	①しるべし、釈迦牟尼仏より第三十三世は、これ古代なりと稽首すべきなり。	*疎山も称賛している	
大庾嶺頭	疎山光仁	①引証(解説)	2	①しるべし、疎山すでに古仏と相見すといふことを。…古仏の在処をしるは、古仏なるべし。	*雪峯も称賛している	
趙州古仏	雪峯義存	①引証(解説)	1	①しるべし、趙州たとひ古仏なりとも、…いはゆる、雪峯老漢大丈夫なり。	*問処の道得	
〈慧忠〉	南陽慧忠	①〈行実〉(称賛)	13	①西京光宅寺大証国師は、曹谿の法嗣なり。…人帝・天帝おなじく恭敬尊重するところなり。	*問処の道得	
古仏心	南陽慧忠	①解説②参究	2	①国師、因僧問、…いはゆる問処は、… ①師いはく、牆壁瓦礫。いはゆる宗旨は、… ②いはゆる牆壁は、いかなるべきぞ、なにをか牆壁といふ、…か、…か。…か、…か。…なりや、…や、…	*問処の道得	
世界崩壊	漸源仲興	①解説	4	①いはゆる世界は、十方みな仏世界なり。…	「尽大地覓一箇会仏法人不可得」	

大悟	
一人不悟者 臨濟義玄 (批判) ①解説②参究	①いはく、生知。これは生じて生を透脱するなり。いはゆるは、…。いはく、学而知、これは…。いはく、仏知者あり。これは…。いはく、無師知者あり。… ②いま慧照大師の道取するところ、… ③しばらく臨濟に問すべし、不悟者難得のみをしりて、悟者難得をしらずば、未足為足なり、不悟者難得をも参究せるといひがたし。 ④いまの問処は、問処なりといへども示衆のごとし。
大悟卻迷 華嚴休静 ①称賛②解説 ③参究	②いはゆる大悟底人はもとより大悟なりとはならず。… ③しばらく功夫すべし、大悟底人の卻迷は、不悟底人と一なるべしや。…か。…か。…かと、かたがた参究すべきなり。 ④師云、破鏡不重照、落華難上樹。この示衆は、…
還仮悟否・悟 即不無 米胡・仰山 ①解説②参究 ③破邪	①いはくの今時は、人人の而今なり。… ②還仮悟否。この道をしばらく参究して、胸襟にも換却すべし。 ③いまの還仮悟否の道取は、…
(悟道是本期) ①批判	①近日大宋国、禿子等いはく、悟道是本期。かくのごとくいひていたずらに待悟す。

「填溝塞壑」「切忌随他覓」

坐禅儀	(坐禅作法)	(思量箇不思 量底)	薬山惟儼	①解説 ①引証	3	①参禅は坐禅なり。坐禅は静処よろし。 ①…これすなはち坐禅の法術なり。
坐禅箴	思量箇不思 底	薬山惟儼	①引証②解説	4	①大師の道かくのごとくなるを證して、兀坐を 参学すべし、兀坐正伝すべし。 ②僧のいふ、不思議底如何思量。…②大師いは く、非思量。…	
〈嗣承〉	薬山惟儼	①批判	2	①薬山かくのごとく单伝すること、すでに釈迦 牟尼仏より直下三十六代なり。薬山より向上 をたづぬるに、三十六代に釈迦牟尼仏あり。 かくのごとく正伝せる。すでに思量箇不思議 底あり。		
了)	(得胸襟無事	①批判	1	①しかるあるに、近年おろかなる杜撰いはく、 功夫坐禅、得胸襟無事了、便是平隠地也。こ の見解、なほ小乗の学者におよばず、人天上 よりも劣なり。		
禅)	(行亦禅坐亦	①批判	24	①又一類の漢あり、坐禅弃道は、これ初心晩学 の要機なり、かならずしも仏祖の行履にあら ず、行亦禅坐亦禅、語黙動静体安然なり、た だいまの功夫のみにかはることなかれ。臨 済の余流と称するともがら、おほくこの見解 なり。		
磨磚作鏡	南嶽・馬祖	24	↓古鏡			

<p>④ 磨作鏡</p>	<p>③ 師作什麼</p>	<p>② 図作仏</p>	<p>① 図箇什麼</p>
<p>① 解説</p>	<p>① 解説（引証）</p>	<p>① 参究② 解説</p>	<p>① 参究</p>
<p>① この道旨あきらむべし。磨作鏡は、道理かならずあり、…古鏡も明鏡も、磨磚より作鏡をうるなるべし。</p>	<p>① まことに、たれかこれを磨磚とみざらん、…作什麼なるはかならず磨磚なり。</p>	<p>① この道、あきらめ達すべし。作仏と道取するは、いかにあるべきぞ。…するか、…するか、…か、…するか、…するか。</p> <p>② するべし、大寂の道は、坐禅かならず図作仏なり、…</p>	<p>① この問、しづかに功夫参究すべし。そのゆゑは、坐禅より向上にあるべき図のあるか、…か、…か。…か。審細に功夫すべし。</p>
<p>* まことに…と引証のごとく解釈しながらも、什麼の解釈において道元禅師独自の解釈がなされている。</p>	<p>* この磨磚作鏡については、予めほとまった形で引用ではなく、十四分されて各各にコンントが付されている。</p>		

⑤ 磨磚豈得
成鏡耶

① 解説

① 磨磚は成鏡にあらず。

* “まことに…”として解
釈しながらも、道元禪師
独自の解釈がなされてい
る。成鏡のための磨磚で
ないことをしめしてい
る。

⑥ 坐禪豈得
作仏耶

① 解説（引
証）

① あきらかにしりぬ、坐禪の作仏をまつにあら
ざる道理あり、作仏の坐禪にかかはれざる宗
旨かくれず。

* “あきらかにしりぬ、
…”と引証のごとく解釈
しながらも、道元禪師独
自の解釈がなされてい
る。作仏のための坐禪で
ないことを示している。

⑦ 如何即是

① 解説

① いまの道取一ひとすじに這頭の間著に相似せ
りといえども、那頭の即是をも問著するな
り。

⑧ 車若不行

① 参究② 解説

① しばらく車若不行といふは、いかならんかこ
れ車行、いかならんかこれ車不行。…か、…
か。

* 道元禪師独自の理解がな
されている。“仏道に打
車のあること”を参学す
べきであるとしている。

⑨ 大寂無対

① 解説

① いたずらに蹉過すべからず。…

⑩ 汝学坐禅
為学坐仏

① 解説（引証）

① いまの道取を参究して、まさに祖宗の要機を弁取するべし。いはゆる学坐禅の端的いかなりとしらざるに、学坐仏としりぬ。

*道元禅師は、原典（伝灯録五）が「師又曰」としているのを、南嶽またしめ、いはいはくとして、これが質問ではなく、坐禅が坐行であると南嶽が示した意ととっている。

ここに道元禅師の解釈の独自性がある。

⑪ 若学坐禅
禅非坐臥

① 解説

① いまいふところは、坐禅は坐禅なり、坐臥にあらず。

*この二つの語についても道元禅師独自の解釈がなされている。原典では、

⑫ 若学坐仏
仏非定相

① 解説（引証）

① いはゆる道取を道取せんには恁麼なり、坐仏の一仏二仏のごとくなるは非定相を莊嚴とせるによりてなり、…仏非定相の莊嚴なるゆゑに、若学坐禅すなはち坐仏なり。

禅が坐臥にかぎらず又仏には定相がない、という意であろうが、これを独自に転釈し、坐禅は坐臥ではなく坐仏であるという意にとっている。

⑬ 汝若坐禅
即是殺仏

① 解説

① いはゆる、さらに坐仏を参究するに殺仏の功德あり。坐仏の正当恁麼時は殺仏なり。殺の言、たとひ凡夫のことばにひとしくとも、ひとへに凡夫と同ずべからず。

*殺の解釈において道元禅師独自の解釈がみられる。

⑭若執坐相
非達其理

(仏祖光明)

(還源返本)

坐禅箴

宏智古仏

①解説

①解説②破邪

①批判

①称賛②解説

①称賛

11

①いはゆる執坐相とは、坐相を捨し、坐相を触するなり。

①仏祖の光明に照臨せらるるといふは、この坐禅を功夫参究するなり。

②おろかなるともがらは、仏光明をあやまりて、日月の光明のごとく、珠火の光耀のごとくあらんとおもふ。

①古来より近代にいたるまで、坐禅銘を記せる老宿一兩位あり、坐禅儀を撰せる老宿一兩位あり、…かれらが所集は、ただ還源返本の様子なり、いたづらに息慮凝寂の経営なり。観練薰修の階級におよばず、十地等覚の見解におよばず。いかでか仏祖の坐禅を単伝せん。

①坐禅箴は大宋国…天童景德寺宏智禅師正覚和尚の撰せるのみ仏祖なり、坐禅箴なり、道得是なり。

②いはゆる坐禅箴の箴は、…

①先師上堂のとき、よのつねにいはいはく、宏智古仏なり。自余の漢を恁歴いふこと、すべてなかりき。

*執の解釈において道元禅師独自の解釈がみられる。

*まず宏智の『坐禅箴』の全文を挙げ次にこれが八分されてコメントが付されている。重複の部分はカットされている。

↓古仏心

坐禅箴	(道元)	10	○いま宏智禅師よりのち八十余年なり、かの坐禅箴をみて、この坐禅箴を撰す。…へ坐禅箴…宏智禅師の坐禅箴、それ道未是にあらざれどもさらにかくのごとく道取すべきなり。	*涅槃經をふまえた馬祖の語。	
海印三昧	但以衆法	馬祖道一	6	①いはゆる海印三昧の時節は、すなはち但以衆法の時節なり、… ①起時唯法起。この法起かつて起をのこすにあらず。 ①此法滅時、不言我滅。まさしく不言我滅のときは、…	○古仏いはく、…
忽然火起	法華經	①解説	1	①この起の相待にあらざるを、火起と道取するなり。	○古仏いはく、…
起滅不停時如何	羅山道閑	①解説	1	①しかあれば、起滅は我我起、我我滅なるに不停なり。	「官不容針、私通車馬祖」 「相逢不拈出、拳意便知有」 「背手摸枕头」「我於海中、唯常宣說妙法華經」「一波纔動万波随」「世人住处」「満船空載月明婦」
(三昧)	(滅・起)	①解説		①おほよそ滅は、仏祖の功德なり。	①三昧は現成なり、道得なり。

大海不宿死屍 曹山本寂

〈曹山本寂〉

①大海不宿死屍

②不宿死屍

③為什麼絶氣者不著

④万有非其功絶氣

伝法之偈

達磨

①解説

①解説

①解説

①解説

①解説

優鉢羅華

同安察常

①引証

1

1

○この曹山は、雲居の兄弟なり。洞山の宗旨、このところに正的なり。いま承教有言をいふは、仏祖の正教なり。

①いはゆる大海は、内海・外海等にはあらざるべし。

①不宿死屍といふは、：

①僧のいはく、為什麼絶氣者不著は、：

①曹山の道すらく、万有非其功絶氣。いはゆるは、：

①この華開の時節、および光明色相を参学すべし。：自然成といふは、：

①しかあれば、優鉢羅華はかならず火裏に開敷するなり。：

*最初に全文を挙げ、次にこれを四分して各各にコメントを付している。

「明頭来明頭打、暗頭来暗頭打」「幾度逢春不変心」「高高峯頂立」「多福一叢竹」

「従来疑著這漢」

○高祖道、：

「吾本来此土、伝法救迷情、一華開五葉、結果自然成」「結果任爾結果」「無位真人」

○古先いはく、：「華開世界起」

<p>華亦不曾生</p>	<p>翳人見空華</p>	<p>（空華）</p>
<p>慧可</p>	<p>首楞嚴經</p>	<p>①解説②破邪</p>
<p>①解説</p>	<p>①破邪②解説</p>	<p>1</p> <p>①この宗旨の現成、たとへば、：</p> <p>○祖師いはく、：</p>
<p>①解説</p>	<p>①破邪②解説</p>	<p>2</p> <p>①この道著、あきらむる学者いまだあらず、：</p> <p>○釈迦牟尼仏言、：</p> <p>*首楞嚴經のこの語自体を批判してはおらず、この語に対する邪解を挙げて破すという形をとっている。</p>
<p>②しるべし、</p>	<p>②しるべし、</p>	<p>①しるべし、仏道に空華の談あり。外道は空華の談をしらず、いはんや覺了せんや。</p> <p>①仏世界および仏諸法すなはちこれ空華なり。</p> <p>②しかあるに、：凡愚おもはくは、翳眼といふは、衆生の顛倒のまなこをいふ、病眼すでに顛道なるゆゑに、淨虚空に空華を見聞するなりと消息す。：</p>
<p>①この宗旨の現成、たとへば、：</p>	<p>②しるべし、</p>	<p>②しるべし、仏道の翳人といふは、本覺人なり、：仏向上人なりおろかに翳を妄法なりとして、このほかに真法ありと学することなかられ。</p>
<p>○祖師いはく、：</p>	<p>○釈迦牟尼仏言、：</p>	<p>*空華について道元禪師独自の解釈がみられる。</p>

悟道偈	張拙	①解説	6	①張拙秀才は石霜の俗弟子なり。悟道の頌をつくるには、 …	*悟道偈については、最初にまとまった形で引用文はなく、八分されて各々にコメントが付されている。 「不如三界、見於三界」 *涅槃・生死についての解説あり。
空華乱墜	芙蓉靈訓	①引証（解説）	7	①いま帰宗道の一翳在眼、空華乱墜は、保任仏の道取なり。しかあればしるべし、翳華の乱墜は、諸仏の現成なり。 ①しるべし、十方仏の実ならざるにあらず、もとこれ眼中華なり。十方諸仏の注意せるところは眼中なり。	*最初にまとまった形で引用はなく、二分されて各々にコメントが付されている。 *石門を称えている。
眼中華	瑯琊慧覚	①引証（解説）	7	①大宋国石門山の慧徹禅師は、梁山下の尊宿なり。ちなみに僧ありてとふ、如何是山中寶。この問取の宗旨は、 ①師いはく、空華従地発、蓋国買無門。この道取…	
空華従地発	石門慧徹	①解説②破邪	3	②よのつねの諸方は、空華の空華を論ずるには、於空に生じてさらに於空に滅するとのみ道取す。…ただひとり石門のみしれり。	

光明	尽十方界	長沙景岑	①提起	7	① 仏道の参学、かならず勤学にすべし、：	↓諸法実相・十方
(仏教伝来)	(光明)	此光照東方	① 破邪② 解説		○孝明皇帝の御宇、永平十年戊辰の年、摩騰迦・竺法蘭、はじめて仏教を漢国に伝来す。：それよりのち、梁武帝の御宇、普通年中にいたりて、初祖みずから西天より南海広州に幸す。これ正法眼蔵正伝の嫡嗣なり。釈迦牟尼仏より二十八世の法孫なり。：法を二祖大祖禪師に正伝せりし、これ仏祖光明の親曾なり。	*この上堂に対する直接のコメントはない。
		法華経	① 解説	1	① 転疏転遠の臭皮袋おもはくは、仏光も自己光明も、赤白青黄にして、火光・水光のごとく、：日月の光のごとくなるべしと見解す。 ② いはゆる仏祖の光明は、尽十方界なり、： ③ このゆゑに、：の道著あり、：東方は彼此の俗論にあらず、法界の中心なり、：	
	仏光明	憲宗皇帝・韓退之	① 称賛↓② 批判	9	① いまこの文公、これ在家の士俗なりといえども、丈夫の志気あり、： ② しかありといへども、韓文公なほ仏書を見聞せざるところあり、：	*唐憲宗皇帝と韓退之の紹介のあと、問答を挙げている。 「云何忽生山河大地」

〈雲門文偃〉	光明	雲門文偃	①解説	5	<p>○雲門山大慈雲匡真大師は、如来世尊より三十世の法孫なり。法を雲峯真覺大師に嗣す。仏衆の晩進なりといえども、祖席の英雄なり。</p> <p>①いま大師道の人人尽有光明在は、…</p> <p>①雲門みづからいはいはく、作麼生是光明在。この問著は、…</p> <p>①ときに衆無対。たとい百千の道得ありとも、無対を拈じて道著するなり。</p> <p>①雲門自代云、僧堂・仏殿・廚庫・山門。いま道取する自代は、雲門に自代するなり、…</p> <p>①これすなはち、雪峯の通身是眼睛時なり、…</p> <p>①いま帰方丈、入僧堂、これ話題出身なり。…</p> <p>①この話題は七仏已前事なり。</p> <p>①仏祖の大道、かならず無上の行持あり、道環して断絶せず。発心・修行・菩提・涅槃、しばらくの間隙あらず。行持道環なり。</p> <p>①慈父大師十九歳の仏寿より、深山に行持して、三十歳の仏寿にいたりて、大地有情同時成道の行持あり。…</p> <p>①第八祖摩訶迦葉尊者は、釈迦の嫡嗣なり。生前もはら十二頭陀を行持して、さらにおこたらず。</p>
行持上	僧堂前相見	雪峯義存	①解説	2	<p>*以下、三つの示衆・問答に対するコメントは短い。</p> <p>「不曾染汗」「世人愛処」</p>
望州鳥石	保福・鵝湖	①解説	4		
典座入庫堂	地藏桂琛	①解説	1		
〈行持道環〉	①説示	①説示	1		
〈釈迦牟尼仏〉	①〈行実〉	①〈行実〉	1		
〈摩訶迦葉〉	①〈行実〉	①〈行実〉	1		

十二頭陀	摩訶迦葉 （三千威儀 經）	①提起	11	①十二頭陀といふは、…これを十二頭陀といふ。摩訶迦葉よく一生に不退不転なり。如来の正法眼蔵を正伝すといへども、この頭陀を退することなし。
不食僧食	釈尊・迦葉		12	
迦葉半座	摩訶迦葉	①〈行実〉	7	①しるべし、摩訶迦葉は仏会の上座なり。
〈波栗濕縛〉		①〈行実〉		①第十祖波栗濕縛尊者は、一生不脇不至席なり。これ八旬老年の弁道なりといへども、當時すみやかに大法を単伝す。
脇尊者	波栗濕縛	①称赞	16	①誓願の一志不退なれば、わづかに三歳をふるに、弁道現成するなり。
〈慧能〉		①〈行実〉		①六祖は新州の樵夫なり、…これ奇代の大器なり、抜群の弁道なり。
〈馬祖道一〉		①〈行実〉		①江西馬祖の坐禅することは二十年なり。これ南嶽の密印を稟受するなり、…いまの臨済は江西の流なり。
〈雲巖・道吾〉		①〈行実〉		①雲巖和尚と道吾と、おなじく薬山に参学して、…法を洞山の悟本大師に伝付す。
打成一片	洞山良介	①〈行実〉	1	①洞山いはく、われ…なり。いまその道、あまなく伝付せり。
〈雲居道膺〉		①〈行実〉		①雲居山弘覚大師、そのかみ三峯庵に住せしとき、天廚送食す…

*コメントなし。

「天廚送食」

〈百丈懷海〉		① 〈行実〉	①百丈山大智禪師、そのかみ馬祖の待者としてありしより、入寂のゆふべにいたるまで、一日も為衆為人の勤仕なきはあらず。…いま大宋国に流伝せる臨済の玄風、ならびに諸方の叢林、おほく百丈の玄風を行持するなり。
〈鏡清道忞〉		① 〈行実〉	①鏡清和尚住院のとき、土地神かつて師顔をみるこえす。たよりをえざるによりてなり。
〈三平義忠〉		① 〈行実〉	①三平山義忠禪師、そのかみ天廚送食す。大顛をみてのちに、天神また師をもとむるに、みることあたはず。
〈長慶大安〉	長慶大安	① 解説（稱賛）	①後大滬和尚いはく、…しるべし、一頭の水牯牛は、二十年在滬山の行持より牧得せり。
〈趙州從諗〉	趙州從諗	① 〈行実〉	①趙州観音院真際大師從諗和尚、とし六十一歳なりしに、はじめて発心求道をこころぎす。
七歳童児	趙州從諗	① 〈行実〉	①瓶錫をたずさへて行脚し、遍歴諸方するに、つねにみづらからいはく、…かくのごとくして南泉の道を学得する、功夫すなはち二十年なり。
	2		

「天廚送食」

↓家常

不離叢林	趙州從諗	① 解説（稱贊）	3	①あるとき、衆にしめしていはく、…。これ行持をしめすなり。しるべし、十年五載の不語、…不語なりといへども啞漢にあらざらん。	↓道得
〈大梅法常〉	大梅法常	① 〈行実〉	4	①大梅山は慶元府にあり、この山に護聖寺を草創す。法常禪師その本元なり。禪師は襄陽の人なり。…	
即心是仏	大梅法常	① 〈行実〉	17	①かつて馬祖の会に参じてとふ、…	
随流去	大梅法常	① 〈行実〉	3	①鹽官の会より一僧きたりて、やまにいりて…	
幾度逢春不変心	大梅法常	① 〈行実〉	3	①つひに僧に命じて師を請するに、出山せず。偈をつくりて答するにいはく、…	
一池荷葉	大梅法常	① 〈行実〉	17	①これよりのちに、なほ山奥へいらんとせしちなみに、有頌するにいはく、…	
我祇管即心是仏	大梅法常	① 〈行実〉	26	①あるとき、馬祖ことさら僧をつかはしてとはしむ、…この道をもちて馬祖に拳似す。馬祖いはく、梅子熟也。	*大梅の法嗣（法孫）として天龍・俱胝・迦智を拳げている。
〈五祖法演〉	五祖法演	① 〈行実〉	5	①五祖山の法演禪師いはく、師翁はじめて楊岐に住せしとき、…	
楊岐乍住	五祖法演	① 〈行実〉	2	①翌日に上堂して、衆にしめしていはく、…	
行無越思	五祖法演	① 〈行実〉	2	①演和尚、あるときしめしていはく、…	
〈黄帝・堯・舜〉				○黄帝・堯・舜等は、俗なりといへども草屋に居す、世界の勝躡なり。	

黄帝之行	尸子	①〈行実〉	4	①しるべし、合宮・總章は、ともに草をふくならり。…
(鬼神覩見)	南泉普願	①〈行実〉	2	①南泉いはく、…しるべし、無修の鬼神に覩見せらるるは、修行のちからなきなり。
護伽藍神	宏智正覚	①〈行実〉	8	①太白山宏智禪師正覚和尚の会に、護伽藍神いはく、…
此事非僧徳	王伯痒	①〈行実〉② 引証		①この天童山は、もとは小院なり。… ②しるべし、かくのごとくの事は、俗の能なり、僧の徳にあらず。
説得一丈	大慈寰中	①解説	3	①大慈寰中禪師いはく、…これは、…
説取行不得底	洞山良介	①解説	2	①洞山悟本大師道、…これ高祖の道なり。その宗旨は、…
説時無行路	雲居道膺	①解説	3	①雲居山弘覚大師、この道を七通八達するにいはく、…この道得は、…
人生百歳	僧伽難提	①解説	4	①古来の仏祖いひきたれることあり、いはゆる、…これは一仏二仏のいふところにあらず、…
〈南嶽懷讓〉		①〈行実〉		①南嶽大慧禪師懷讓和尚、そのかみ曹谿に参じて、執侍すること十五秋なり。…
〈香巖智閑〉		①〈行実〉		①香巖の智閑禪師は、大瀉に耕道せしとき、…

「説似一物即不中」

行持 下	〈嗣承〉	梁武相見	〈達磨〉	〈雪峯義存〉	宣宗沙弥	〈唐宣宗皇帝〉	栽松因縁	〈臨濟義玄〉
	達磨	達磨・武帝	① 行実	① 行実	① 行実	① 行実 (香嚴智閑)	① 解説 (称賛)	① 行実
		14			21		8	
	○初祖は釈迦牟尼仏より二十八世の嫡嗣なり。 武とふ、 ：	①初祖、金陵にいたりて梁武と相見するに、梁	○真丹初祖の西来東土は、般若多羅尊者の教勅 なり。	①雪峯真覚大師義存和尚、かつて発心よりこの かた、 ：	①のちに杭州鹽官齊安禪師の会にいたりて、書 記に充するに、黄檗禪師、ときに鹽官の首座 に充す、 ：	①唐宣宗皇帝は、憲宗皇帝第二の子なり。：	①しかあればすなはち、得道ののちも杉松など をうゑけるに、 ：	①臨濟院慧照大師は、黄檗の嫡嗣なり。黄檗の 会にありて三年なり。： *祖席の英雄は臨濟・徳山といふ。しかあれど も、徳山いかにしてか臨濟におよばん。： ①しかあればすなはち、得道ののちも杉松など をうゑけるに、 ：
				「伝法救迷情」	「九上洞山、三到投子」		*穆宗・武宗等の故事を挙 げている。	*徳山をおさえている。

<p>非習禪</p> <p>黄泉伝語人</p> <p>〈慧可〉</p> <p>〈初祖・二祖・三祖・四祖・五祖・六祖・青原・南嶽〉</p>	<p>達磨（林間録）</p> <p>香嚴智閑</p>	<p>①引証②破邪</p> <p>①引証</p> <p>①〈行実〉</p> <p>①〈行実〉</p>	<p>17</p> <p>3</p>	<p>①しかあればすなはち、梁より魏へゆくことあきらけし。…面壁燕坐すといふども習禪にはあらざるなり。</p> <p>②しかあるを、史者あきらめず、習禪の篇につらぬるは、至愚なり、かなしむべし。</p> <p>①香嚴禪師いはく、…しかあればすなはち、おしむにたとひ百計千万をもてすといふとも、つるにはこれ塚中の塵と化するものなり。</p> <p>①真丹第二祖、大祖正宗普覚大師は、神鬼ともに嚮慕す、道俗おなじく尊重せし高德の祖なり、…</p> <p>①おほよそ初祖・二祖、かつて精藍を草創せず、雑草の繁務なし。および三祖・四祖もまたかくのごとし。五祖・六祖の寺院を自草せず、青原・南嶽もまたかくのごとし。</p>	<p>↓仏道</p> <p>○石門林間録云、…</p> <p>↓仏道</p> <p>*慧可の行実（達磨に参ずる因縁）が漢文まじり（主として話し合言葉の部分）が漢文）で示されている。</p>
--	----------------------------	--	--------------------	--	--

〈石頭希遷〉	① 〈行実〉	雲門・法眼
〈道信〉	① 〈行実〉	① 石頭大師は、草庵を大石にむすびつけて、石上に坐禪す。…いま青原の一派の天下に流通すること、人天を利潤せしむることは、石頭大力の行持堅固のしかあらしんるなり。いまの雲門・法眼のあきらむるところある、みな石頭大師の法孫なり。
上表遜謝	① 称賛	① 第三十一祖大醫禪師は、十四歳のそのかみ、三祖大師をみしより、服勞九載なり。…真丹の第四祖なり。
一切諸法悉皆解脱	① 引証② 破邪	① 貞觀癸卯歲、…しかあればすなわち、四祖禪師は、…
〈玄沙師備〉	① 〈行実〉	① 高宗永徽辛亥歲閏九月四日、忽垂誡門人曰、一切諸法、悉皆解脱。…しるべし、一切諸法、悉皆解脱なり。 ② 生者かならず滅ありと見聞するは小見なり、滅者は無思覺と知見せるは小聞なり。学道には、これらの小聞・小見をならふことなかれ。生者の滅なきもあるべし、滅者の有思覺なるもあるべきなり。
		① 福州玄沙宗一大師、法名師備、…幼年より垂釣をこのん。…芙蓉山靈訓禪師に投じて落髮す。豫章開元寺道玄律師に具足戒をうく。

備頭陀	雪峰・玄沙	① 行実	① 與雪峯義存、本法門昆仲。而親近若師資。… 一日雪峯問曰、…
〈長慶慧稜〉		① 行実	① 長慶の慧稜和尚は、雪峯下の尊宿なり。雪峯と玄沙とに往来して、参学すること僅二十九年なり。…
〈瀉山靈祐〉		① 行実	① 大瀉山大円禅師は、百丈の授記より、直に瀉山の峭絶にゆきて鳥獸為伍して、結草修練す。…
〈仰山慧寂〉		① 行実	① のちに仰山きたりて侍奉す。仰山もとは百丈先師のところにして、問十答百の驚子なりといふども、瀉山に参侍して、さらに看牛三年の功夫となる。
〈芙蓉道楷〉		① 行実	① 芙蓉山の楷祖、もはら行持見成の本源なり。国主より定照禅師号ならびに紫袍をたまふに、祖うけず、修表具辞す。
仏祖高行	芙蓉道楷	① 提示（称赞）	① 芙蓉山に庵せしに、…あるとき、衆にしめすにはく、…〈引用文〉…これはすなわち祖宗单伝の骨髓なり。…芙蓉高祖の芙蓉山に修練せし行持、したひ参学すべし。
〈馬祖道一〉		① 行実	① 洪州江西開元寺大寂禅師、諱道一、…南嶽に参侍すること十余載なり。…

*仰山の行実
は瀉山の行実の末尾に付け加えられる形で示されている。

莫帰郷	南嶽・馬祖	① 〈行実〉② 解説③ 破邪	① あるとき、郷里にかへらんとして、半路にいたる。…南嶽ちなみに偈をつくりて馬祖にたまふにいはく、… ② 莫帰郷とはいかにあるべきぞ。東西南北の帰去来、ただこれ自己の倒起なり。 ③ 並舎老婆子は、説汝旧時名なりとはいはざるなり。並舎老婆子、説汝旧時名なりといふ道得なり。	*南嶽の偈に対して道元禪師独自の解釈がみられる。
〈弘忍〉		① 〈行実〉	③ われ向南行するときは、大地おなじく向南行するなり。…須弥大海を量としてしかあらずと疑殆し、日月星辰に格量して猶滞するは小見なり。 ① 第三十二祖大満禪師は、黄梅人なり。…七歳伝法よりのち、七十有四にいたるまで、仏祖正法眼蔵よくこれを住持し、ひそかに衣法を慧能行者に附属する、不群の行持なり。衣法を神秀にしらせず、慧能に附属するゆえに、正法の寿命不断なるなり。	
〈天童如浄〉		① 〈行実〉	① 先師天童和尚は、越上人事なり。十九歳にして、教学をすてて参学するに、七旬におよむでなほ不退なり。	*修表（上表）辞謝
（捨名利）		① 説示（引証）	① しかあれば、すみやかに生死の愛名をすてて、仏祖の行持をねがふべし、…	

(第一有道心)	天童如浄	① 〈行実〉		① 衲子を教訓するにいはく、参禅学道は、第一有道心、これ学道のはじめなり。	*これは如浄が拙庵徳光を批判したところ。
光仏照不会	天童如浄	① 〈行実〉		① 某甲そのかみ径山に掛錫するに、光仏照そのときの粥飯頭なりき。上堂していはく、仏法禅道、かならずしも他人の言句をもとむべからず、ただ各自理会。∴ 仏照ことに仏法の機関をしらず、ひとへに貪名愛利のみなり。∴	↓ 仏経・三昧王三昧
参禅者身心脱落	天童如浄	① 称赞	3	① 又いはく、参禅者身心脱落也、∴。打坐に勧誘するともがら、たえて風聞せざるなり。ただ四海五湖のあひだ、先師天童のみなり。諸方もおなじく天童をほむ、天童諸方をほめず。	
普説閱歴		① 〈行実〉		① 先師よのつねに普説す、∴かくのごとく上堂し、かくのごとく普説するなり。	
趙提拳	天童如浄・ 提拳	① 〈行実〉	38	① 趙提拳は、嘉定聖主の胤孫なり。∴先師陞座了に、提拳にむかうて謝していはく、∴	*平侍者の日録
(平侍者)				① 平侍者いはく、這老和尚、不可得人、那裏容易得見。	*平侍者が如浄を称えた語。
(道昇)				① 先師の会に、西蜀の錦州人にて、道昇とてありしは、道家流なり。∴	*如浄の会下
(善如)				① 又福州の僧、その名善如、ちかひていはく、∴	*如浄の会下

*紙幅の関係上、七十五巻本『正法眼蔵』第十六「行持」下までを載せることにした。ただし、この表は『正法眼蔵』を研究するための私的メモとしても、未だ不備な点があるので今後改善したいと思っている。ここに挙げた部分では、特に「坐禅蔵」の巻の備考において、筆者の解説メモを試みたが、全体的に、備考の余白を利用すべく今後さらにメモを付け加えたい。また、この表の作製の作業を進めながら、いろいろな問題を得た。今後、それらについても研究を進めたい。特に内容分類における「批判」「破邪」の部分について、いったい道元禅師は何を批判し、何を邪見として破したのか。『正法眼蔵』の中からその一々を取り上げ、全体的な整理をしたらおもしろい。また、〈嗣承〉の部分において、『正法眼蔵』の伝灯録としての一面が見出だされた。祖師に対する言及、特に法の伝承に関する主な記述をまとめ、それらを整理することによって、「仏祖」の巻に見られるような祖師がどのように結び付けられたのかを中心に、そこから分かれる他の祖師についても含めて、考察してみたい。また、「坐禅蔵」の巻の備考で筆者のメモを付したが、これら道元禅師の独自の解釈ともいえる一つ一つを、腰を据えて掘り下げてみる必要性を感じた。一例を挙げれば、「磨磚作鏡」の話における「南嶽またしめしてはいはく、汝学坐禅、為学坐仏」は、原典（景德伝燈録五）では、「師又曰」（聯灯会要では「師又問」）

と質問であるのを、道元禅師は「またしめしてはいはく」と改変し、「坐禅を学すのか、坐仏を学すのか」と質問しているのではなく、「学坐禅は学坐仏である」と示している。意に解釈している点は、道元禅師の仏法を理解するうえで実に必要な点の一つであろうが、これらについて、原典あるいはそれに準ずるものと照らしあわせて、ちょっととした言葉の違いまで見逃さずに見てゆくことは大切なことであろう。また、「内容分類」の「参究」における「いかなるかこれ：、いかなるかこれ：」：「か、：か」あるいは「：するか、：なるか」について、たとえば『正法眼蔵抄』では、「イカナルカコレ／＼アマタアケラム是ハ例ノ非疑義コレ／＼ノ詞ハ皆コレト云心地ナリ」（『永平正法眼蔵蒐書大成』十一、三五四～三五五頁）と注釈しているが、これらについても注意してみるとおもしろいだろう。等々、この表はいろいろなことを私に語ってくれている。今後、充実を期し、なんらかの形でその全体を公にできれば、と思っている。